

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろかみ学園児童発達支援センター（児発）		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 10日		～ 令和 8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	144	(回答者数) 93
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 10日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置が手厚く、支援の質が高いこと。	クラス担当制を取り入れ、一つのクラスに5～6名の職員を配置していること。また、その日の人数や利用児の状況に応じて他のクラスからの応援体制を取るなど工夫していること。	職員の専門性向上のため、研修参加を継続し支援の質をさらに高めること。また、外部からのコンサルテーションを次年度以降も取り入れ職員の支援技術の向上を図ること。
2	環境構造化・清潔さ・安全性への配慮が高いこと。	室内は構造化をして、目的に合わせた環境設定を行っていること。毎日の清掃、月1回の美化活動で清潔な環境を作っていること。	トイレの臭気・窓の高さなど構造的な課題に対し、二重窓設置や換気改善など出来るところから検討していくこと。
3	支援計画の共有とチーム支援が機能していること。	朝の全体引継ぎや各クラスで引継ぎノートを使用し情報を共有していること。月1回のクラス会議を実施。また、保育園との情報共有に努めていること。	事務処理の簡略化のためにICT活用を進めること。担当が変更した際の情報連動性をさらに高め、統一した支援を実現すること。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流・きょうだい支援の機会が少ないこと。	2月末現在で99.4%の利用児が園との併行通園の為、保護者同士の交流は通園先の園にお願いしている部分が多いこと。きょうだいの交流の機会を設定するよう検討を行っているが、現在のところ時間・人員ともに余裕がないこと。	ペアレントプログラムや参観時の懇談会の機会を活用して、交流の機会を増やすこと。業務の見直しなどを行い、きょうだい交流イベントの開催を検討すること。
2	連絡帳の未記入・情報伝達のばらつきがあること。	その日の状況（職員配置や支援の状況）によって、記入時間の確保ができないことがあること。また、職員の思い込みによる単純な記入漏れもあること。送迎や放デイ利用児の受入れで、職員間の情報伝達が十分でないことがあること。	記入ルールの徹底、ICT化を進め職員の事務軽減を図ることで、情報伝達の均一化を図ること。
3	非常時対応・訓練実施の周知不足があること。	各種マニュアルは作成し訓練は実施しているが、保護者への周知が十分でないこと。防犯マニュアルについては、外部への情報開示をしていないこと。	訓練実施の事前・事後の周知はセンター便りやホームページを活用すること。契約時などに安全計画を明確に伝える仕組みを整えること。